

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473800611	事業の開始年月日	平成16年3月1日	
		指定年月日	平成16年3月1日	
法人名	特定非営利活動法人 都筑の丘			
事業所名	グループホーム 都筑の丘			
所在地	(〒224-0057)			
	神奈川県横浜市都筑区川和町1705			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	27名	
自己評価作成日	平成30年12月1日	評価結果 市町村受理日	平成31年4月29日	
			ユニット数	3 ユニット

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム都筑の丘は都筑区の中でもひととき、豊かな自然に恵まれた環境のなかにあります。地下鉄の川和町駅からホームまでの道は地域の方が丹精された野菜、四季折々の植物が散歩の楽しみを倍増させてくれています。また通勤する職員の心も和ませてくれます。ホームは2000坪の敷地内にあり、春は桜の開花に合わせたお花見、秋は地域の保育園の園児達との芋堀等はみなさん楽しみにされています。畑のじゃが芋、玉ねぎ、大根、白菜、里芋など収穫した野菜を日々の食事に取り入れています。豚汁は大人気です。栗、柿、みかん、キウイフルーツ、柚子も今年は豊作で毎日柚子湯にしています。毎食鯉節と昆布でだしをとり、地域の商店街から届く新鮮な食材を使い、ほとんど加工品を使わない手作りの食事を提供しています。今年は猛暑のため夏の納涼祭をやめ代わりに秋祭りを行いましたが地域の方がたのご協力で楽しい秋祭りになりました。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成31年1月23日	評価機関 評価決定日	平成31年4月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
 当事業所は、横浜市営地下鉄グリーンライン川和町駅から徒歩で10分ほどの緑豊かな田園風景の中の2000坪余りある敷地に平屋建てと2階建ての建物が庭を挟んでゆったりと立っている。裏の丘陵を利用した畑には、ボランティアの協力で四季折々の野菜や、花々が植えられ、建物周囲の植栽とともに利用者や地域の方の楽しみになっている。

【五感を活かした支援】
 「五感を刺激し、個人の能力が発揮できるように支援します。」を理念の1つに掲げている。五感を刺激することで利用者だけでなく職員の感受性も豊かになり、自然に恵まれた地域での生活から感じる季節の変化や、生活の中での音や臭い、利用者の表情の移ろい、声の調子など微妙な変化に気づくようになると管理者は職員に伝えている。

【介護力と対応力の向上】
 勤務歴が長く経験豊富な職員や介護福祉士、介護支援専門員の資格保有者が多い。法人のバックアップ体制も整い、職場環境も風通しがよく、チームケアも確立してきた。常勤職員の比率も高く、職員の介護技術や対応力の向上もあり、かかりつけ医の協力のもと、家族の負担軽減に配慮して必要以上に医療費がかからない取り組みも実現している。食が細くなった利用者も他の利用者と共に外食に誘い、好きなものを食べていただいた。その翌日に急変し、検査の結果、末期がんが判明し入院に至っている。家族からは、最後に好きなものを食べられたことへの感謝の言葉があり、「利用者の今を大切に、1日1日を大切に」と職員間で共有している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 都筑の丘
ユニット名	みずき、やまぶき、あじさい棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の名札の裏に5つの理念を明記してある。その中に地域社会の一員として心豊かに生活を送れるように支援しますが入っています。毎月曜日の朝礼時に復唱しています。	開所時に前理事長と職員が作成した理念を常に念頭に置き、毎日のケアの中で実践している。月曜日の朝礼時の唱和や毎月のワーカー会議で、理念にまつわる創設者の思いや、地域の理解の大切さ、地域密着の重要性を再度教育している。事業所として何が地域に還元できるか、利用者の今の思いを大切に、と管理者が伝えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の皆様が常に見守ってくださり感謝です。氏神様の初詣の甘酒のふるまい、川和囃子連の獅子舞、町内会の盆踊り、ホームの秋祭りには全面協力していただいています。地域住民と連携の消防訓練にも参加していただいています。	利用者が地域の中でごく普通の生活ができるように、散歩で出会う地域の方との交流や、地域の行事への参加、事業所の祭りに地域の方を招待するなど日常のご近所付き合いがある。生活に必要なものや毎日の食材は顔なじみの地元の商店から購入している。商店主の方が休みを利用して社交ダンスや民謡のボランティアに来訪している。秋には、裏の畑で近くの保育園児と恒例の芋掘りをして交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	川和小学校の認知症サポーターの講師、近隣の中学校の職場体験、夏休みのボランティア体験の受け入れをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2か月に1度運営推進会議を行っています。委員の方々にはホームの行事にも参加していただいています。	運営推進会議は、利用者家族、町内会長、婦人部会長、民生委員、ボランティア代表、地域包括支援センター職員、近隣の特別養護老人ホーム施設長、消防団長など多彩なメンバーで2か月ごとに開催している。会議では地域から情報提供を受けたり、事業所が地域に対して還元できることなどを話し合っている。外部評価の結果や利用者アンケートの意見なども報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所主催の認知症サポーター連絡会、認知症フォーラムのスタッフとして活動している。認知症サポーター養成講座の講師、認知症カフェ連の講師をすることで連携しています。	都筑区主催の認知症フォーラムには、毎年パネル展示やスタッフとして協力している。老人会の認知症サポーター養成講座の講師や認知症カフェ連絡会の講師などを引き受け、高齢障害支援課職員と連携を取っている。生活保護費受給者の相談なども生活支援課にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないという前提でケアを行っている。玄関の施錠に関しては周囲の環境、認知症であるが故必要な方法であることをご家族に入居時に説明してご理解頂いています。	玄関は防犯のため、家族の了解を得て施錠しているが、ユニット内や周回できるテラスへは居室やリビングから自由に出入りができる。車いすは移動の手段とし、リビングでは椅子への移動をしている。認知症の進行に伴い、多動などの行動・心理症状が出た時には、職員会議などで対応を話し合い、情報を共有してケアに当たっている。職員は利用者が不快に感じない声や音の音量などにも配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年12月に県の虐待チェックシートによる自己点検シートを作成して、それを資料にして研修を行っています。ストレスを抱え込まないで職員間で問題を共有することが虐待防止に繋がると思っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、地域の住民を対象に勉強会を企画し職員も参加したことがある。成年後見制については制度を利用されている方がいるので理解しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時相談員が利用者、及び代理人の権利（第10条）義務（第13条）契約解除（第14条）をわかりやすく説明し、納得していただき同意を得て契約しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られることが多い土日祝日は管理者、ホーム長は出勤するようにしており、ご家族と対応するようにしている。そこからケアプランに繋げて反映させています。	家族会は行っていないが、行事の時や面会時などに家族から話を聞く機会を設けている。今年は、成人の日の餅つきを厳冬の時期を避け、3月のひな祭りに行ったり、猛暑のため納涼祭を秋祭りにしたところ家族から好評を得ている。敬老祝賀会の際に、職員の負担を軽減するため茶話会にしたらと家族からの提案があり変更している。毎年の外部評価の家族アンケートで出る意見も、運営に活用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月W会議で出た問題点、改善案などはその場で解決し即実行している。各行事の実行委員による反省会で出されたことは来年度に反映されている。管理者は必ず出席しています。	職員との個人面談は年1回人事考課を兼ねて行っている。毎日のケアの中でも、重度化した利用者の入浴介助の不安や、夜勤を少なくして欲しいなど、職員が管理者と話ができる環境がある。職員から他の事業所との交換研修後、他のホームを参考にケアの軽減のため入浴回数を少なくしたり、レトルトや冷凍食品を利用する提案が出た時は、法人の方針を丁寧に説明し、理念に立ち返って考える事の重要性を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力、実績、貢献度などを公平に見極め、職員が向上心を持って安心して働けるよう努力している。介護職員処遇改善交付金は年3回支給しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士、介護支援専門員の受験時は勤務の便宜を図っています。社内研修はW会議の時にタイムリーな課題で行っています。社外研修にも参加できるように考えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜高齢者グループホーム連絡会、神奈川高齢者認知症グループホーム協議会に加入し複数連携事業にも参加している。現場研修にも毎年参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族に作って頂いたアセスメントをもとにしながらお話をします。入居初期は緊張や不安が多く、職員だけではなく、他入居者にも協力していただいで対応をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の入居者さんに対しての思い、ホームに対する希望など遠慮なく言える雰囲気を作り、ご家族が安心して頂ける環境を作っている。納得出来るまで見学相談をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人の不安な気持ちを理解し、あせらずに根気よく対応をしています。帰宅願望、入浴拒否はあって当然と職員は理解して対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	9人の入居者と職員が下宿屋さんのように暮らせることが理想。それぞれの得意分野を職員が把握し協働している。時にはトラブルも発生するが、それも日常生活と捉えています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはいつでも、気軽に来て頂ける様にしている。家族と職員が協力しあうことが入居者の安心と安定に繋がるとして援助している。ご家族にさせていただくこともケアと考えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで過された環境を大切にし、家族、友人の訪問、外出はとても良いことだと思っています。	家族や友人の訪問も多く、家族と教会に行く方や、友人と食事に出かける方もいる。家族と墓参りや法事に出る方、結婚式に家族が用意した晴れ着を着て参列する方もいる。通いなれた美容室に行く方や、今までの生活習慣で化粧をする方も数名いる。好きな相撲や大河ドラマをテレビで見たり、木曜日に好きなアイドルの出る番組を楽しみにしている方たちには、新聞のテレビ欄などで時間を伝えるなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、合わない人を職員が常に視野に置いてトラブルを未然に防ぐようにしている。お互いに一方通行の話でも楽しそうに話しているのを職員は温かく見守っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現段階では該当するケースはありません。今後必要なケースが出現した場合は相談、支援していきたいと思います。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	帰宅願望、入浴拒否はあって当然と受け止め、ご本人の気持ちを大切にしながら対応している。困難な時はご家族に協力していただくこともあります。	職員は利用者と1対1になる入浴時や散歩などの機会を大切にして、本音で話をしてもらえようような関係づくりをしている。利用者の思いから運動会を復活させ、体を動かす活動を増やしている。報告書に日々の介護や利用者の会話の内容を記録して、ワーカー会議などで話し合い、情報を共有している。汲み取った思いや意向をケアプランに反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に幼少時から現代までの状況をご家族と一緒にアセスメントを行い今後のケアに反映させている。お話しの中ででてくる分からない事はご家族にその都度お聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調、気分、天気等を視野に入れながら過ごしていただいている。手伝いをさせていただくことで職員も助かっています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体の状態や認知症の進行等でトラブルが生じた時はその都度職員同志で話し合いご家族に相談し早い対応をしています。介護計画の目標が達成できるように実施状況を毎日意識してケアを行っています。	職員は利用者の変化を見逃さないようにアンテナを張り、情報を共有し、日々のケアに当たっている。毎月のワーカー会議後のケアカンファレンスで全員分のモニタリングを行い、通常は6か月毎の見直しをするが、変化のある時は医療情報などを加味してその都度見直している。「援助目標実施ファイル」にサービス内容を記号で表示し、日々の記録と連動させている。職員は常にケアプランを念頭に置き介護にあたっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎月報告書をご家族に送付しています。職員間の業務日誌、連絡ノートは出勤したらすぐに目を通し情報の共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関との連携、川和町町内会、婦人会、地元の消防団、保育園、小・中学校、学童保育、地域包括センターなど多くの協力を得て多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道、絵手紙、音楽療法、園芸療法、民謡、秋祭り、餅つき、ダンスなどの地域ボランティアの方たちのご協力、ご近所の方たち見守り助言などを頂き安全で豊かな生活が送れるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医（内科・整形外科・歯科）による、定期的な往診。急変時の対応もしてくれるので職員も安心して入居者も顔なじみのDrの往診に笑顔で受診されています。	慢性疾患のある方や家族の希望で入居前からのかかりつけ医に受診をする方は、家族が同行し、状況を受診ファイルに記録して情報を共有している。現在の利用者の状況や職員の対応力、介護技術の向上を踏まえ、利用者や家族の経済的負担軽減のため、必要に応じた医療の受診に今年度から変更している。協力医は月1回、同クリニックの看護師が医師と重ならない日に月1回訪問している。毎週口腔ケアで訪問している歯科衛生士から職員が口腔ケアの指導を受け、日常の口腔ケアに当たっている。歯科医は必要に応じ、治療に訪れている。訪問マッサージの訪問もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の看護師には気軽に相談でき電話での相談もいつでも快く対応してくれるので心強いです。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、カンファレンスにはホーム長、管理者が同行して病院との連携を計っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時は医療と家族と一緒に話し合い、ホームでできる範囲のケアを職員と検討し行っている。介護保険上の看取りはしていませんが、現実にはそれに近いケアをかかりつけ医に相談しながらしています。	入居時に事業所の重度化した場合の方針を口頭で説明をして家族から了解を得ている。看取り介護は実施していないが、利用者や家族の状況や希望に応じ、協力医のアドバイスなども受けながら、食事が摂れなくなるぎりぎりまでホームで対応している。	利用者の重度化や、急変に備え、終末期対応の研修会参加や、協力医や看護師の指導による勉強会の開催などを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時応急手当、救命措置、AEDの使い方を消防署の指導を受けています。また、事故が発生した時はそれを教訓として事例検をしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	歩行できない入居者（特に2階）を救助する訓練をしています。認知症であることで他所での避難生活は難しいと思っています。広い敷地を利用した避難生活考えています。	夜間想定避難訓練を今年度は6月と1月に利用者也参加し、消防署立ち合いで行っている。避難訓練では、AEDやスプリンクラーと消火器の使い方などについて、消防署員から指導を受けている。訓練には地域の方も参加をして見守り役で協力している。地域の防災訓練には職員が参加している。2月に開催される区消防署主催の高齢者施設の職員を対象とした防災研修会への参加を予定している。備蓄は徒歩2分ほどの倉庫に職員分を含めて3日分以上用意し、リストで管理している。備品は庭の倉庫に大鍋やプロパンガス、コンロ、ポータブルトイレなどを備えている。	
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の進行により本来のその人らしさが失われてしまうことがあります。その方の尊厳を大切に言葉かけや対応を心がけています。	理念に掲げる「個人を尊重し、プライバシーを守る」ことを常に意識し、利用者を人生の先輩として言葉遣いには注意をしている。特にトイレ誘導は周囲にも配慮した誘導を心掛けている。個人情報保護の研修はワーカー会議や全体会議でも実施している。個人情報を含む書類は施錠管理を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや気持ちが表現できるような環境、雰囲気を作っている。散歩、レクリエーションなどの参加も自由で入浴時間なども希望の時間にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分を優先して一人ひとりのペースを大切にしている。一日のスケジュールは特に決めず、天気、入居者の希望を優先しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はできるだけ自分で決めていただいています。できない方は職員がご本人に聞きながら着ていただいています。季節、色の組み合わせ等を配慮してコーディネートしています。時にはお化粧品をすることもあります。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、食器拭き、食器をしまう等一人一人の得意な事をいただいています。外食や出前をとったりすると喜ばれます。献立がマンネリ化すると管理栄養士に伝えメニュー変更しています。	今年度は、利用者の入れ替わりにより、年代やADLも変わり、今まで提供が難しくなっていた揚げ物なども職員からの提案で委託の管理栄養士（以前事業所の職員）に相談し、献立に取り入れている。日常の食事は、管理栄養士が献立を立て、地域の商店に食材を発注している。事業所の畑で採れた旬の野菜や果実が食卓に上ることもある。食事は手作りを大切にして冷凍食品や加工食品などは使わず、毎回職員が調理をし、利用者もできる範囲で手伝いをしている。対面キッチンから聞こえる調理の音やにおいが利用者の五感を刺激している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスの良い献立に季節の旬の物を取り入れてもらっている。歯の状態、嚥下低下に合わせて対応している。食べにくかったり、不評のメニューは栄養士に伝え変更しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週火曜日に歯科衛生士による口腔ケアを行っている。職員も歯科衛生士による口腔ケアの指導を受けている。毎食後に職員が歯磨きの見守り、介助をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し、トイレの声かけを行い、リハビリパンツを使用してもトイレでの自然な排泄ができるように支援している。夜間もトイレで排泄できるように時間でトイレにお連れしています。	トイレは各ユニットに3か所、うち2か所が車いす対応の開口部が広い介助用トイレである。どのトイレも清掃が行き届き、排泄用品なども目に触れない、臭気も極力しないように配慮している。どのトイレの扉にもタオルで作った小さなドレスをかけ目印にしている。できる限りトイレでの排泄を支援し、利用者ごとの排泄パターンを把握してトイレ誘導している。夜間はセンサーを使用して転倒などの事故がないように備えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が不穏の原因の1番であり認知症の発症原因であることを職員は理解して観察記録をしています。1日2回の体操、ストレッチ、歩行をしています。かかりつけ医に相談しながら便秘薬の調整をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	1日おきの入浴ですが毎日入りたい方には時間調整しながら入っていただいています。拒否が強い方は無理じいせず職員間の連携プレーで気持ちよく入浴できるようにしています。	入浴は1日おきに、今までの生活習慣から夕方以降の入浴を好む方が多くいるため、15時半～食後の20時までの間で利用者の希望を聞き対応している。希望があれば毎日の入浴にも応じる体制がある。冬場のヒートショック対策で暖房機を設置している。利用者のその日の体調によっては、シャワー浴や足浴で対応している。冬場は庭の柚子で度々柚子湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングでお手伝い、余暇支援、散歩をすることが夜間の良眠に繋がります。疲れたら適度に居室で休息したり、昼寝をしたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬のことがすぐ分かるようまた与薬時の誤薬の防止のための服薬管理表を職員二人で確認をしている。薬の変更がある時は連絡ノート、引継により徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の得意なこと、好きな歌を職員が理解して得意分野のことが発揮できるような場面を作っている。役割があることが自信になっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然恵まれた環境なので、天気の良い時は午前、午後と散歩にお連れしています。全棟行事としてご家族にも協力していただき春・秋の遠足をしています。	天気の良い日は利用者の歩行に合わせ、自然豊かな事業所周辺を散歩している。散歩で出会う近隣の方とあいさつを交わしたり、時には野菜や花をいただくこともある。事業所の広い敷地を散策する方や、ところどころに置かれたベンチで庭の木々や花々を眺めながら外気浴を楽しむ方もいる。週2回、3ユニット合同で庭で歌を歌ったり体操をしている。春と秋には家族と一緒にズーラシアに遠足に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症であることによる、金銭トラブル、妄想等の出現あり、金銭は預からざるを得ない。ご本人には家族が預っていることをその都度お話ししています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の場合はご家族の了解を得た上で、掛けたいと言われた時にホームから家族、友人に電話をかけている。自分で描かれた絵手紙を友人、家族に出しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりが良すぎて暑くなったり、眩しくなるのでその都度カーテン、ブラインドで調整をしています。CDの曲も季節、その場にいる方の好みで選曲しています。程良い明るさと音量を意識しています。	開所して15年を経過しているが、毎朝の職員の清掃で事業所内はどこも清潔に保たれている。利用者の手が触れるところの徹底した消毒や、こまめな換気などで感染症予防に努めている。リビングの大きな窓からは、開所時に植えた大きな桃や桜の木、四季折々の畑の作物など自然豊かな光景が眺められ、利用者の楽しみになっている。壁面には行事の写真や桜の木の貼り絵などを飾って季節感を出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが2つ置いてあり顔が向きあわないように配置しています。夜はテレビを一緒に観ています。ソファが一人になれる空間にもなっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具、お気に入りのカーテンなどそれぞれの入居者が工夫して生活しているが、認知症の進行により危険物と判断した場合はご家族に相談し撤去しています。	居室には、エアコン、クローゼット、照明器具、レースカーテンが備え付けで用意されている。各居室は感染症対策として万が一利用者が罹患した時はテラスから出入りできる構造になっている。利用者は家具や生活用品など馴染みのものを持ち込み、自作の刺繍などの作品や家族の写真などを飾っている。家具の配置は利用者や家族の希望に応じているが、利用者の状況の変化やADLの低下などで配置を変えている。利用者は職員の助けを借り、居室の掃除をしたり、好きなテレビを楽しむなど思い思いの時間を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広い廊下とリビング、ダイニングを介してさりげない見守りができるように対面式キッチンにしてあります。食事の盛り付け、配膳、食器拭きなどの得意なお手伝いをいただいています。		

